

# 令和5年度 印西市民アカデミーだより 第11号

## 講座12：異文化について学ぶ

10月27日(金)、「異文化」をテーマに、印西市企画政策課、印西市国際交流協会会長 坂東 昭二氏、同協会会員 関村 咲江氏に講義していただきました。

初めに企画政策課から「印西市の国際化、多文化共生施策」について説明していただきました。☆印西市では、外国人数が年々増えており、今後も増える傾向にあります。(下表)

そのため、市の国際化に関する基本姿勢をまとめた「印西市国際化基本方針」を策定しています。この方針に基づき、異文化理解講座や国際化推進懇話会・外国人市民懇話会の開催、市広報の英語版・中国語版・やさしい日本語版の発行、防災情報・ゴミの出し方の多言語化版の発行、外国人の子供のための日本語勉強会(令和5年~)の開催等々、日本人も外国人も安心して住み続けられる「住みよさ実感都市」をめざしています。

	2011年	2020年	2023年9月
外国人数	1,084	2,394	3,032
総人口数	90,529	101,406	110,021
外国人の割合	1.02%	2.31%	2.75%

次に、坂東会長から印西市国際交流協会の活動について説明がありました。☆本協会は、「市民主体の活動を通じて、地域における多文化共生を柱に国際化の推進に寄与し、未来への夢を



一般会員は120名、準会員は70名

を育み、もって国際相互理解と国際親善に貢献すること」を目的に活動しています。主な活動としては、交流イベントの開催(印西ワールドフェスト、世界の料理体験、フレンドシップ・カフェ等)、語学講座の開催(英語・中国語・韓国語)、外国人のための無料相談等、これらの活動を通して国際交流事業の充実・発展に努めています。

最後に、関村氏による「中国女性の変遷史～変容の時代(清代末期・民国初期)の女性を中心に～」を演題に、「古代から現代まで中国の女性たちは何を求められ、そして自らも価値を定義づけてきたのか」歴史的背景を見ながらその変遷史について講義いただきました。☆中国では、儒教が国教になった漢代以降、「男耕女織＝男は外、女は内」という性別分業が多く文献で見られるようになり、「家」を支える模範的な男と女の姿と奨励されてきました。特に、「女訓書」(娘・妻・母・嫁・母としてどうあるべきかを教える家庭教育の書)は、後漢から清代末まで女学校の修身教科書として採用され、「纏足」という風習とともに中国社会に深く浸透してきました。しかしながら、アヘン戦争や日清戦争の敗北による弱体化する国家に危機感が募り、知識層から「反纏足、女子教育の普及」が提唱され、「女は内」の完全喪失が達成され、現代中国の基盤を支えています。



儒教倫理による理想の女性像とは…